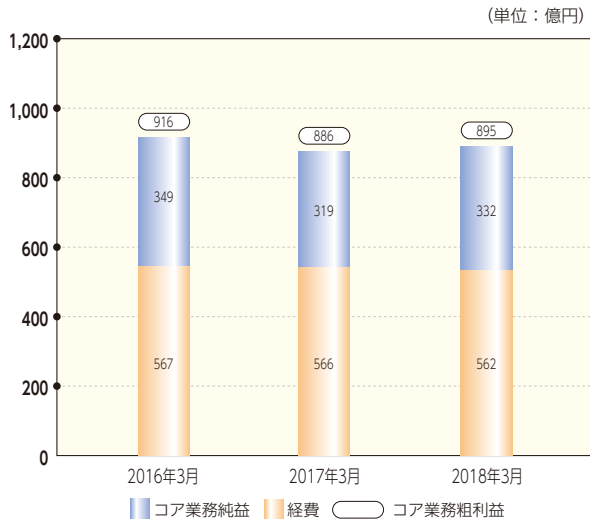


業績ハイライト

損益の状況

1. コア業務純益・経費（単体）

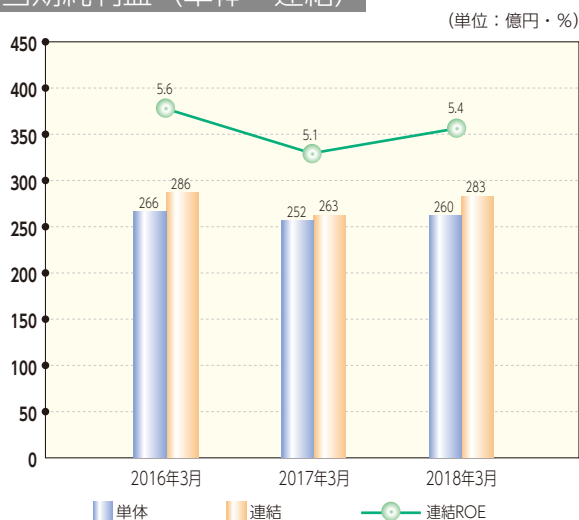


資金利益は低金利の継続に伴う貸出金利の低下などから前年度比減少となりましたが、役務取引等利益などの増加に加え、経費も減少したことから、コア業務純益は前年度比13億円増加し332億円となりました。

(注)コア業務粗利益は、預金・貸出金などの利息収支を示す「資金利益」、各種手数料の収支を示す「役務取引等利益」、債券などの売買損益を除いた「その他業務利益」から構成されます。

コア業務純益は、「コア業務粗利益」から「経費」を控除したもので、銀行の本来業務の収益力を表すものです。

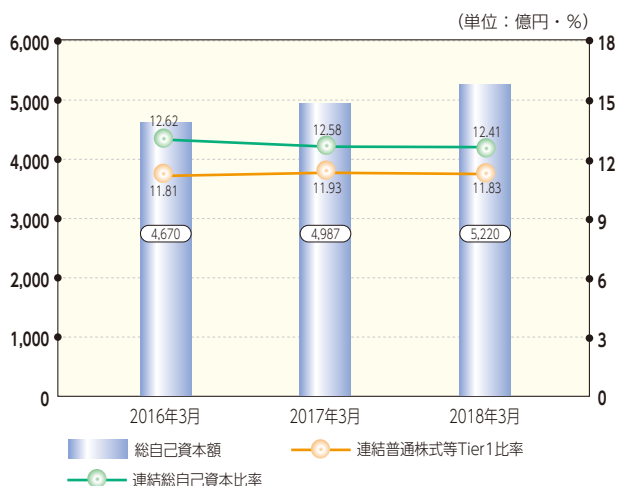
2. 当期純利益（単体・連結）



当期純利益（単体）は、有価証券関係損益の増加および与信費用の減少などから、前年度比8億円増益の260億円となりました。また、連結最終利益は各子会社等も増益であったことから前年度比20億円増益の283億円となり、連結ROE（自己資本利益率）は5.4%と5%を引き続き上回りました。

(注)ROE（自己資本利益率）は財務上の利益率であり、当期純利益を自己資本額（期首期末平均）で除して算出した割合です。

自己資本比率の状況（連結）

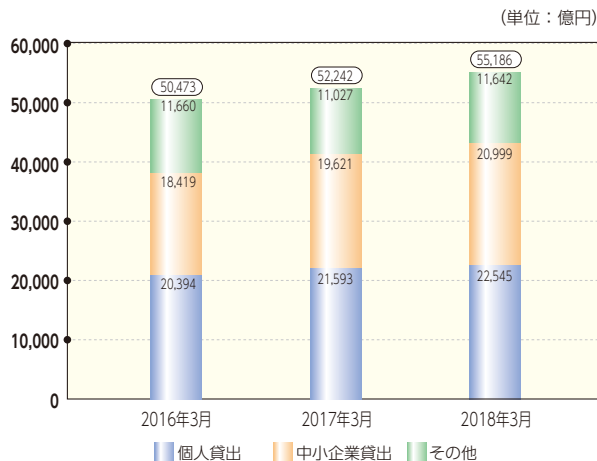


連結総自己資本比率（速報値）は、12.41%と引き続き高水準を維持しました。

当行（国際統一基準行）は、バーゼルⅢ基準による自己資本比率を算出しております。同基準において、4.5%以上の普通株式等Tier1比率、6%以上のTier1比率、8%以上の総自己資本比率の確保が求められております。

(注)自己資本比率（バーゼルⅢ基準）は、国際決済銀行（BIS）の基準に則り、リスクに応じて計算された資産に対する「自己資本」の割合を示し、銀行の健全性を示す重要な指標のひとつです。なお、当行は、海外営業拠点を有する国際統一基準行です。

貸出金の状況 (単体)

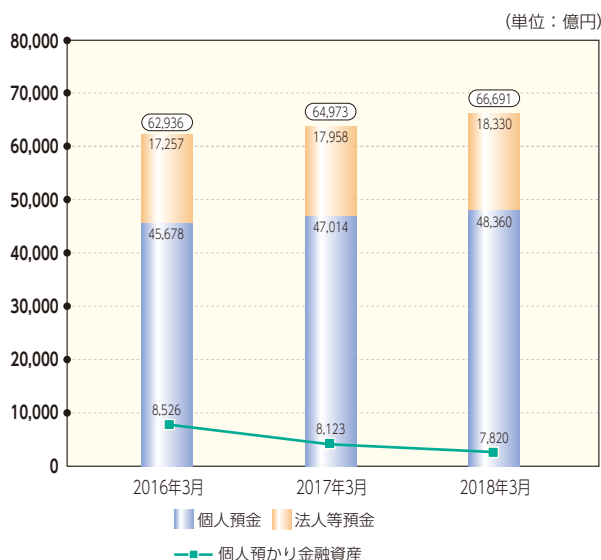


貸出金は、中小企業(※)貸出が前年度末比7.0%、個人貸出が同4.4%と引き続き高い伸びとなり、全体では同5.6%増加し、期末残高は5兆5,186億円となりました。

中小企業貸出は前年度末比1,377億円増の2兆999億円、個人貸出は同951億円増の2兆2,545億円となりました。

(※) 除く、東京・大阪支店勘定および地方公社

預金等の状況 (単体)



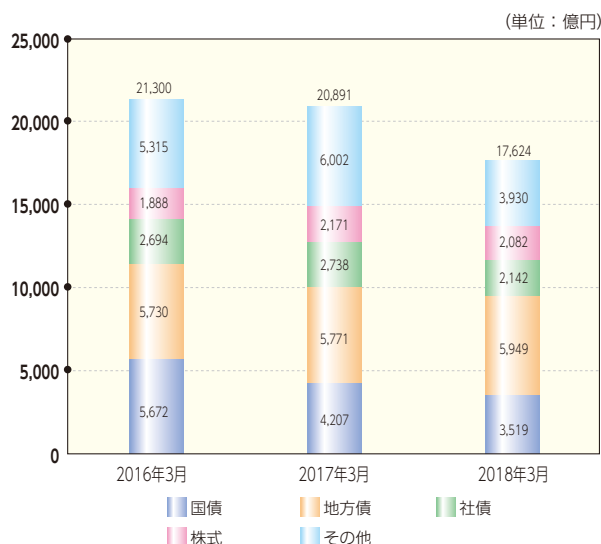
預金は、個人預金を中心に前年度末比2.6%と安定的に増加し、期末残高は6兆6,691億円となりました。

個人預金は前年度末比2.8%増の4兆8,360億円、法人等預金は同2.0%増の1兆8,330億円となりました。

個人預かり金融資産(※)は、販売額が順調に増加したものの、時価の下落等により前年度末比302億円減少し、期末残高は7,820億円となりました。

(※) 投資信託、公共債および生命保険の合計残高

有価証券の状況 (単体)



有価証券は、金利水準など市場動向を注視しつつ適切な運用に努めた結果、前年度末比3,267億円減少し、1兆7,624億円となりました。

なお、その他有価証券の評価損益につきましては、株式が前年度末比12億円増加しましたが、債券・その他が同195億円減少したことから、全体では前年度比183億円減少の1,351億円となりました。